

第6回「斎藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会 会議録	
日 時	令和6年9月19日（木）午後6時30分～午後8時45分
開 催 場 所	神奈川県役所 本館5階 大会議室A、B
出 席 者	牧田部会長、平林委員、山下委員、柳澤委員、山田委員、島田委員、武委員、松井委員、大木委員、佐々木委員、石井委員、小谷野委員、黒木委員、矢島委員
欠 席 者	篠原委員、関委員、東山委員、米盛委員、間邊委員、枝迫委員
開 催 形 態	公開（傍聴者5名）
議 題	建替えに伴う学校規模適正化等の検討について
決 定 事 項	斎藤分小学校と二谷小学校の学校統合は行わず、斎藤分小学校については当面の間存続とし、二谷小学校については、単独での建替えに着手します。
議 事	<p>1 開会 （事務局）</p> <p>それでは定刻のお時間の 18 時 30 分を迎えておりますので、本来ならばこれから検討部会を始めるところではございますが、まずはお知らせがございます。本検討部会で副部会長をお願いしておりました岡田孝様がこの夏御逝去されました。当検討部会では、副部会長として多大な御尽力を承りました。ここに謹んで哀悼の意を表し、皆様に御協力いただきながら、一分間の黙祷をささげたいと思います。皆様よろしくお願ひいたします。黙祷。</p> <p style="text-align: center;">（黙祷）</p> <p>皆様ありがとうございました。御着席をお願いいたします。</p> <p>それでは、ただ今から第6回「斎藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会を開催いたします。本日も御多忙のところ御出席を賜り、本当にありがとうございます。</p> <p>会議の開催にあたりまして、令和6年3月開催の第5回検討部会で委員の皆様にお諮りしたとおり、本日の会議も公開で実施いたします。また、毎度の御案内となり大変恐縮ではございますが、本日も午後8時30分を目途に進行をお願いしたいと考えておりますので、御協力よろしくお願ひいたします。</p> <p>では、開会に先立ち、課長の大家より御挨拶申し上げます。</p> <p>（事務局）</p> <p>皆さんこんばんは。学校計画課長の大家でございます。本日は皆様お忙しい中、また、夜分にもかかわらずお集りいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本検討部会につきましては、第1回の開催からコロナ禍を経て、今年度で三年目を迎えました。本日の検討部会では、後ほど資料でお示しをさせていただきますが、方向性としては、部会が始まる当初に我々が提案させていただいたものから、今回提案</p>

させていただくもので、方向性が変わるものを改めて御提案させていただく形になっております。

部会委員の皆様におかれましては、長きに渡ってこの検討部会でいろいろ御検討いただいたところでございますが、時間がかかった中で、教育委員会が新たな方向性を皆様にお示しすることになり、部会としての方向性が決まるまで、御心配や御迷惑をおかけしたことに關しては、私からまず一言お詫びを申し上げます。

検討部会につきましては、この部会としての意見書を取りまとめていただきまして、我々が親会と呼んでおります学校規模適正化等検討委員会の方に御提出いただいてから、この検討部会は終了という形になりますので、もうしばらくだけお付き合いいただければと考えております。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

(事務局)

ではここからは、私も着座にて失礼させていただきます。

改めまして、本日の部会成立について御報告させていただきます。本日の部会は枝迫委員、米盛委員、篠原委員の3名の委員より欠席するとの御連絡をいただいております。また、現時点でいらっしゃっていない委員の方がいますが、「齋藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会運営要綱第5条第2項に基づき、部会委員全員の半数以上の出席が認められるため、部会開催が成立していることを御報告いたします。

次に、役員等の交代により委員の退員及び就任がありましたので、御報告いたします。退任された委員は前栗田谷中学校校長の小泉純一委員です。小泉委員の後任として、新たに栗田谷中学校校長米盛司様に御就任いただいたことを御報告いたします。続いて、岡田副部会長の後任についてですが、令和6年9月1日に開催されました学校規模適正化等検討委員会において、齋藤分小学校・二谷小学校の部会については方向性をまとめる段階にきているため、新たな副部会長は指名せず検討をお願いするとの意向がありましたので、現メンバーで進行してまいります。

また、事務局側も人事異動がありましたので御紹介させていただきます。教育施設課担当課長の倉本でございます。

(事務局)

倉本でございます。よろしくお願ひいたします。

(事務局)

同じく教育施設課計画推進係長の水橋でございます。

(事務局)

水橋と申します。よろしくお願ひいたします。

(事務局)

続きまして、本日お配りしております資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、まず次第、資料1 委員名簿、資料2 席次表、資料3 「齋藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会ニュース第5号、資料4 事務局に寄せられた御意見等一覧、資料5 青木小学校の検討状況について、資料6 教育委員会事務局からの提案、最後に別紙1 令和6年度義務教育人口推計（神奈川県・小学校）、以上7点となっております。資料に不足がありましたら事務局の方までお声がけください。

続いて、傍聴にあたっての注意事項を申し上げます。まず、「齋藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会の傍聴に関する要領第4条第2項により、傍聴人による写真撮影、録音、録画は全て禁止されています。また、同要領第6条により、会議中の発言、あるいは部会の進行を妨害するといった、部会の運営に支障となる行為を行い、部会の運営に御協力いただけない場合には、部会長が会場からの退去を命じることができると定められておりますので、あらかじめ御承知おきください。

報道機関におかれましては、本検討部会の傍聴に関する要領第5条第2項により、写真の撮影は部会の冒頭とし、部会における発言の録音は禁止されていますので、御了承ください。それでは報道機関の方、ただ今より撮影時間といたしますので、よろしく願いいたします。

(写真撮影)

(事務局)

前回に引き続きまして、会議録や部会ニュースの作成に必要なため、部会の議事内容を録音させていただいておりますので、御承知おきください。

最後に、マイクの使用方法についてお知らせいたします。マイクの電源が2つ以上稼働しているとハウリングする原因となりますので、お手数ですが、発言いただく際には発言終了後に電源をお切りくださいますよう御協力をお願いいたします。

それでは、ここから先の議事進行につきましては、部会長をお願いしたいと思います。牧田部会長、よろしく願いいたします。

(部会長)

こんばんは。ここから先も、着席のまま会議を進行させていただきますので、よろしく願いいたします。

まず、この足かけ3年になります検討部会について、本当に今までも皆様のお手数をかけし、御足労をおかけし、そしていろいろな面で地域の皆様に対しましても、いろんな苦勞をさせたところもあると思います。本当に感謝申し上げる次第でございます。3年経ちますと、徐々に周辺地域も変わってきます。これからまた3年、5

年、10年と変わっていく中で、この地域の小学校、住民の皆さん、子どもたち、皆さんのことを考え、今まで本当に皆さん一生懸命討議をされてきました。ここら辺でお話を結んでいかなければならないのかなと思っております。是非御協力をいただきまして、今日の部会が実りあるものでありますように御祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

それでは、前回の検討内要の確認を事務局からお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

(事務局)

それでは皆様、お手元にあります資料3「斎藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会ニュース第5号を御覧ください。当ニュースは令和6年5月27日月曜日より順次、斎藤分小学校及び二谷小学校の全児童を通じて、各家庭と関係地域全戸に配付いたしました。

それでは、表紙の太枠で囲われた部分、第5回検討部会での決定事項などの欄を御覧ください。第5回検討部会での決定事項ですが、第6回検討部会までの間に、隣接する青木小学校の不足教室対策の方向性を踏まえて事務局で調整を行い、次回検討部会では学校規模適正化の方向性を決定することとなりました。前回の部会の検討内容の確認は以上となります。

(部会長)

それでは、次第3 寄せられた質問・意見について、事務局から報告をお願いいたします。

(事務局)

では、続いて右肩に資料4 事務局に寄せられた御意見等一覧と書かれた冊子を御覧ください。メール、電話及び広聴にて寄せられた御意見は、合計10件ございました。お時間の都合もあるため、御意見につきましては検討部会に関係する部分を黄色くマーカーで塗らせていただいておりますので、そちらの部分をお紹介させていただきます。その他の部分につきましては、資料の方を各自御確認いただければと思います。

それでは1人目の御意見からになります。斎藤分小学校の存続を希望しています。斎藤分小学校の小規模校、アットホームな良さが続くよう祈っています。

2人目の御意見です。統合に賛成です。過疎地域でもなく、周辺に小学校があちこちにある状態なのに、わざわざクラス替えがない6年間を過ごす必要はないと考えています。資料を見てみたのですが、将来的に小学校に通う保護者世代の意見がほとんどなかったのが気になる場所でした。小学生は地域に賑わいや活気を生むために存在しているわけではないです。たくさんの友達と一緒に、間に合えばきれいな校舎でかつ道がちゃんとしたエリアで学べた方がいいです。

3人目の御意見になります。仮に統合となった場合、保護者としては通学距離が遠くなることに不安を感じています。仮に統合する場合には、スクールバス等を出すなどの手段を講じてほしいです。また、統合が決定した際には保護者に対してアンケートを実施するなどの措置も取ってほしいです。

4人目の御意見になります。これから入学する予定の保護者は不安しかありません。早く統合を決めてほしいです。小規模校としての問題はないとの記載がありますが何をもちってそう考えているのでしょうか。本当に保護者の声を聞いていますか。現在小学校に通っている保護者からは小規模だから六年の間に2回 PTA が回ってくるなどデメリットしか聞こえてこず、最初から周辺の別の小学校に通わせたいと考える保護者の声も保育園でちらほら聞こえてきます。検討部会でいつまでも引っ張っても結果が同じならどうするか早く決めて下さい。その方が子供たちに悪影響です。

5人目の御意見になります。統廃校は必ず意見が割れ、しかもその意見の双方が、見方を変えれば正しい場合が多く、関係者の中で結論を出すのはそもそも難しいと感じていました。ですので、検討部会の意見を踏まえ、教育委員会事務局皆さんで方向性を決めて、事を進めていくしかないと思っています。二谷小学校の立場から考えれば、建物が老朽化しているのは間違いのないわけですし、できる限り早く結論を出して建て替えていくべきだと思います。斎藤分小学校に子どもを通わせる親の立場としては、小規模学校はメリットよりもデメリットのほうが多いと思っています。児童間のいじめなどのトラブルや教師のトラブルを 100%無くすことはできません。トラブルの対応策として、複数クラスがあることは有効であることは間違いありません。また、児童が増えることで教職員が多くなることも大きなメリットだと思っています。一番は通う児童のために考えるべきです。廃校になったら地域が荒廃するという意見がありますが、荒廃するのではなく、新しい学区で新しいコミュニティが生まれるだけです。地域防災拠点が近所になくなることを心配している人もいますが、地域防災拠点はあくまでも学校のサブ的な役割であり、そのために本業を犠牲にして廃校しないというのは理由になりません。学区が広くなり通う環境が悪化するという意見もありますが、通い続ければ当たり前になり、子どもたちは慣れます。通う環境は慣れでどうにかりますが、校内の学習環境が抱える課題は永遠に続いてしまうわけなので、そこに重きを置いてほしいと思います。なお、今回の件について、本来あるべき結論を先延ばしにするのは絶対にやめてください。将来斎藤分小学校が老朽化するところまで引っ張った後に廃校では、そのときに通わせている児童が最も不幸なことになりかねません。また、建て替えるとなったとしても、大型重機が入れない状況では何年建て替えに時間がかかるかわかりません。

6人目の御意見になります。なぜ敷地の狭い二谷小学校の建て替えに合わせて、斎藤分小を統合させようとしているのか？横浜市として真剣に少子化に取り組み、子供を増やそうとしているのだったら、ファミリー世代を増やし、二谷小学校、斎藤分小学校ともに活性化させていけばいいのではないのか、なぜ、学校縮小、の方向に舵を切ろうとしているのかわからない。

7人目の御意見になります。斎藤分小学校を近隣の小学校の受入校として残すことで、授業のデジタル化推進、様々な境遇の子どもたちへの教育機会の提供と底上げ、地域の活性化コミュニティの熟成、行政の信頼感に寄与することができると思います。少子化だから統廃合ではなく、魅力的なコンテンツを揃えて横浜市に人を呼ぶ方向で未来を考えていただけたら良いと思います。

8人目の御意見になります。斎藤分小学校の統廃合について反対意見を送らせていただきます。斎藤分小学校は知らない人がいない、リーダー経験が多いなどのメリットが他のデメリットに加えて大きいです。逃げ場となる機会がない、一度関係がこじれると修復が困難などの意見もありましたが、実際にそうなることはなかなか無く、先生たちや周りの友人も関係修復に向けて協力してくれるので少なくとも私が在籍していた6年間でそのようなことが起きたことはありません。斎藤分小学校には休日のグラウンドや体育館の利用団体もいくつかあり、地域の方や保護者との交流も生まれています。学校運営だけではなく地域一体となって成り立つ斎藤分小学校ですので、それを無くすようなことはやめてほしいと思います。

9人目の御意見になります。地域の方の声ばかりが大きく取り上げられている印象があり、当該児童の両親の声が正しくヒアリングされているか疑問に思います。一番影響受けるのは今後入学予定の児童ですので、学区内の幼稚園を通してアンケートを実施する等、しっかりと当事者からヒアリングしてもらいたいと思いました。

最後、10人目の御意見になります。斎藤分小学校と二谷小学校の統廃合に賛成する立場で御意見申し上げます。本来、クラス替えは「いじめ防止」などのネガティブ事案の抑止が目的ではなく、新しいコミュニティでの対人関係の再構築が大きな目的です。児童の人格形成には、クラス替えに伴う対人関係再構築の経験が非常に重要です。教育は学力の発達や保持のみならず、人格形成も重要な獲得目標です。教育行政として児童発達に責任をもって、児童のコミュニケーション能力の鍛錬につながる「クラス替え」の機会を保証してください。第2次ベビーブームを控える時期に、斎藤分小学校の設置が計画されましたが、「期間限定で設置し、児童減少期を迎えたら老人ホームなどに転換する」として地元の合意を得たと聞いています。予定とおりの事を運んでください。そもそも小学校の主人公は「児童」であり、次に教員と父兄です。「越境」が発生している以上、小規模校の解消すなわち統廃合のニーズが潜在的にあることを示しています。統廃合により教員の負担を軽減することが見込まれるのであれば、その点からも統廃合するべきです。私の子どもも私自身も対象校の卒業生で、母校の名前がなくなるのは寂しいですが、次世代の為になれば、統廃校を望みます。

寄せられた御意見の報告は以上になります。

(部会長)

事務局に寄せられた御質問、御意見について、事務局から報告いただきました。本日の部会もこの内容を踏まえながら検討していただきたいと思っております。

次に、先ほど事務局から報告がありましたとおり、本検討部会の検討にあたっては、青木小学校の不足教室対策の方向性を踏まえて事務局が調整を行うことになっておりましたので、次第4 青木小学校の検討状況について、事務局から報告をお願いしたいと思います。

(事務局)

それでは皆様、今度は右肩に資料5 青木小学校の検討状況について、と書かれました資料を御覧ください。まず、青木小学校の現状についての情報共有になります。

1 青木小学校の児童数の推移 (1) 令和6年度義務教育人口推移(一般学級)を御覧ください。青木小学校は、一般学級として対応できる教室が25教室ございます。児童数について、令和6年度は5月1日の実数値で、令和7年度から令和12年度まではその実数値を基にした予測値となります。それに基づきますと、令和11年度には保有教室数の25を超えて26教室、令和12年には27教室と今後学級数が増えていく見込みとなります。続いて、(2)児童数が増加する背景になります。皆様下の青木小学校区内の開発状況を御覧になりながら、聞いていただければと思います。青木小学校の学区内では、民間企業の社宅が閉鎖され、その跡地にマンションが建設される等、土地利用転換によるマンション開発が増加しています。開発状況につきましては、下図の右下を御覧いただければと思います。①から⑨までが、現在教育委員会事務局で把握できておりますファミリー世帯の開発状況となります。①から⑨まで教育委員会事で把握できている戸数として、全部で令和10年までに915戸、青木小学校の学区内で供給される予定となっております。そのほかに、青く塗りつぶされたダイヤと白抜きのダイヤがあります。塗りつぶされた部分は東海道線沿いにありましたサカタのタネ、ガーデンセンター横浜の跡地となります。こちらは京急不動産さんが開発されるということで、現在は200戸程度のマンションが建つと聞いております。そのほか、白いダイヤのところは、松ヶ丘にございましたJR東日本松ヶ丘寮の跡地となります。こちらも現在建物は取り壊しが進んでおりまして、聞くところによりますと、100戸程度のマンションが建つという情報も聞いております。現在その200戸や100戸という数字につきましては、正式な数字が上がっているわけではなく、私たちがヒアリングした内容となっております。不確かな情報のため、こちらの戸数には含めておりません。実際に聞いている情報をベースにしますと、全部で1200戸のマンションが令和10年、11年頃までに供給されることになっております。

(事務局)

表の図面の米印ですが、今後開発が想定されている場所、今申しあげましたガーデンセンター横浜の跡地と、JR東日本松ヶ丘寮跡地につきましては、不確定要素の状況となっておりますので、(1)で示しております、義務教育人口推計には今後入居する児童数として取り込んでおりません。ですので、現在R12で児童数820名、27学級を予想しているとお示ししておりますが、この数字よりも確実に上がってくるこ

とが現状見えている状況でございます。

(事務局)

続いて、裏面の2 一般的な不足教室対策を御覧ください。横浜市教育委員会の方で教室不足が露呈したときの一般的な対応方法となります。まず、一つ目としては、多目的室などの一般教室として転用できる教室を一般教室に改修することで、施設面での対応により、必要な教室を確保することを行っています。こちらの留意点としては、青木小学校のグラウンド面積が大変狭い中で、プレハブ校舎の設置等をした場合、授業や地域活動に支障があることから、慎重な判断が必要となっております。なお、青木小学校の敷地面積につきましては、9,288 m²となっております。二つ目の方法としましては、通学区域の見直しによる教育環境の確保です。最後に、3 青木小学校運営協議会から意見書をいただいているものがございますので、そちらの内容を御説明させていただきます。7月19日付で、今年の夏に青木小学校の学校協議会から教育委員会に対し、意見書が提出されました。意見書の内容につきまして、一部抜粋して御説明させていただきます。一つ目としては、いたずらに教室の改修工事を繰り返すのではなく、まずは青木小学校の教室不足問題を解消するためのありとあらゆる手段を検討した上で、対応案を示してほしい。二つ目としては、検討にあたっては、地域、保護者、学校等と話し合いを重ねながら、児童を最優先としつつも学校及び地域にとって、最善な結果となることを目指して取り組んでいただきたい。といった内容の意見書をいただいております。御説明は以上となります。

(部会長)

ただいま事務局から報告がありましたが、御質問や御意見がありましたらお願いいたします。なお、この場では資料に関する青木小学校の話に留めていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。何か御質問、御意見はございますでしょうか。

(質問、意見なし)

(部会長)

それでは、次に行きたいと思います。次第5 議題(1)「学校統合について」に移ります。皆様から御意見をいただきたいと思いますが、まずは事務局から皆さんに提案があるとのことですので、説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは皆様、資料6と右肩に書かれました「教育委員会事務局からの提案」という資料を御覧ください。教育委員会事務局としての今回の検討部会の考え方についてお示しさせていただきます。

1 検討部会としての方向性

齋藤分小学校と二谷小学校は学校統合を行わず、齋藤分小学校については当面の間存続とし、二谷小学校については、単独での建替えに着手すべきと考えます。

2 齋藤分小学校

本検討部会等でこれまで説明してきたとおり、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考えています。そのため、教育委員会としては、齋藤分小学校の学校規模適正化は必要だと考えています。

また、「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」では、小規模校のまま建替えることは想定していません。仮に、齋藤分小学校を建替える必要が生じた場合には、時間をかけて行えば、現在の技術においても不可能ではないと考えていますが、学校運営を行いながら長期間にわたって工事を行うことは児童に負担が大きいなど、教育上の課題があります。

一方、青木小学校の不足教室対策の一環として、今後、齋藤分小学校との間で通学区域の見直しが行われる場合は、同校は適正規模校になる可能性があることから、現時点では学校統合を行わないことが適当と考えます。

今回学校統合を行わない場合、これまで本検討部会で積み重ねた議論をベースにしつつも、再検討時の児童数等の状況及び将来の周辺地域の開発状況を踏まえて、学校校舎の目標耐用年数である70年を目途に改めて検討することを提案します。その際には、齋藤分小学校の通学区域の再編成や老朽化対策の手法等を議論することを提案します。

3 二谷小学校

齋藤分小学校が適正規模校となる可能性があることから、齋藤分小学校との統合を見送り、二谷小学校単独で建替えの検討を進めていくことが適当と考えます。その際には、児童が安全、安心で快適な学校生活を送れるような学校施設を目指すとともに、学校関係者・地域関係者の意見を伺いながら設計等の検討を進めます。

なお、二谷小学校は現在の学級規模で推移する場合、校舎のみを建替え、体育館は存置します。

御説明は以上となります。

(部会長)

事務局から説明していただきました。事務局からの提案について、まずは質問や意見がありましたらお願いしたいと思います。その後、今回は部会にとって大事な方向性を決めることとなりますので、皆さんから一言ずつ御意見、御感想をお願いしたいと思います。最後に私からも意見を述べさせていただいたあとに、皆さんと一緒に方向性を決めたいと思います。それでは、まず事務局からの提案への質問等からお願いしたいと思います。御質問等はございますでしょうか。御意見でも結構です。

(委員)

今の資料、「2 斎藤分小学校」の下から2行目「70年を目途に改めて検討します。」との文章ですが、この前の文章を読んでも何を検討するのかが書いていません。建替えまたは斎藤分小をどうするのかということをこの時点で検討するというのでしょうか。

(事務局)

読みづらくて申し訳ございません。「70年を目途に改めて検討します。その際には、斎藤分小学校の通学区域の再編成や老朽化対策の手法等を議論することを提案します。」ということで考えております。

(委員)

分かりました。

(部会長)

ほかにございますか。

(委員)

「資料6 教育委員会事務局からの提案」につきまして、やっとかという気持ちがある正直な感想です。事情はいろいろありますけれども、二谷小学校は3年待たされています。「3 二谷小学校」の中にあります、単独建替えとなった場合、「学校関係・地域関係者の意見を伺いながら設計等の検討を進めます。なお、二谷小学校は現在の学級規模で推移する場合、校舎のみを建替え、体育館は存置します。」との記載がありますが、一刻も早く結論を出してほしい中で、二谷小学校が単独建替えとなり、現在の学級規模で推移する場合、当然青木小学校の問題が絡んできます。いつ頃までに青木小学校の結論は出るのでしょうか。二谷小学校の校舎が古くなっていく間に、体育館も古くなっていきます。校舎と一緒に体育館も新しく大きくしていただくなど、そういった地域関係者の意見を伺いながら設計等の検討していただければと考えていいのでしょうか。設計を変更することに関しては、非常にお金がかかることも分かっていますが、結論が出る時期をいつ頃と見込んでいらっしゃるのか伺いたいと思います。

(事務局)

青木小学校の検討の見通しはいつ頃になるのかということですが、青木小学校につきましては、先ほど御説明させていただきましたけれども、学校運営協議会からもこれからしっかりと議論してほしいという御意見をいただいています。現状、青木小学校の通学区域の見直しがされるかどうかは全くもって方向性が見えていないというの

が正直なところではございますけれども、当然、二谷小学校の設計に影響するという
ことも我々教育委員会としても認識しております。そのため、二谷小学校の建替えが
さらに先に延びるようなことは適切ではないと考えております。これから青木小の検
討をスタートする段階ですので、いつまでにということは、今、具体的には申し上げ
られないところではありますが、できるだけスピード感をもって、二谷小学校の設計
に影響がないような形で、青木小学校の対策について、関係者の皆様と方向性を見出
していきたいと考えております。

(委員)

二谷小学校に影響がないように極力スピード感をもってとのことなのですが、青木
小学校も一筋縄ではいかないのかもしれないですし、いつとは言えないのは分かりま
すけど、二谷小学校としては、斎藤分小学校との統廃合の検討当初から言っていると
おり、校舎を建替えて新しくなりました。だけどキャパオーバーですというような状
況にはならないようにお願いします。なお且つ、これだけ時間を取ってしまったの
で、とにかく迅速にお願いいたします。二谷側もそれくらい思っているということ
を改めて認識してほしいです。以上です。

(事務局)

お気持ちはしっかりと受け止め、我々も取り組んでいきたいと思えます。

(部会長)

ほかにございますか。

(委員)

この方向性で私としてはいいとは思いますが、二谷小学校側の意見になるのですが、
「3 二谷小学校」において、「現在の学級規模で推移する場合、校舎のみを建替
え、体育館は存置します。」ということで、体育館を建替えないと、スパッと切られ
ています。文科省からの学級規模からすれば、教育委員会としては体育館の面積は今
のままで十分だから建替えはしないという話なのでしょうけれど、防災拠点として考
えたときに、校舎だけ新しくなって、体育館がそのまま存置ですということにはとて
も賛成はできません。防災拠点として、今の体育館で人を収容することはこちらと
しては受け入れられません。ですから、そういうところも考慮して、教育委員会に
対しては、そういうものは存置しますと切るような意見で意見書をまとめてほしくな
いです。

(事務局)

お気持ちとしては承りますけれども、体育館についてはどうしても耐用年数にまだ
達してないため、仮に二谷小学校の児童数が今のこの規模で推移した場合には、基本

的には校舎のみで建替えさせていただきたいと考えております。

(委員)

教育委員会としてはそういう考えかもしれないですが、教育委員会としてだけではなく横浜市全体として、そういう方向性でいいのでしょうか。

(事務局)

横浜市としてということで伺いましたけども、学校施設について拠点としての役割ということも我々当然認識しております。御理解いただきたいところではございますが、我々としては、耐用年数や学校規模を考えた中で、仮にこのまま二谷小学校が現在の学級規模で推移する場合には、体育館は建替えないというのが現在の考え方になります。

(委員)

体育館を建替えなかった場合には、空調設備とかもちゃんと付けてくれるのですか。

(事務局)

空調設備は付けます。中の設備的な面については更新していきたいと思えます。

(部会長)

ほかございますか。

(委員)

図面ができてみないと、保護者及び地域の人たちは何にも言えないと思えます。前回か前々回のときに、単独建替えの際の仮の図面が載っていたかと思えますが、あの図面だとソフトボールの試合もできないくらいのグラウンドの広さです。建替え後は、入り口が反対になり、校舎の位置が変わるため、わざわざ体育館の横に廊下を作って校舎から体育館に入る形をとっているようなのですが、今でもソフトボールをするのがギリギリな大きさのグラウンドを、より狭くしてしまうのかなという感じです。そのため、図面ができて見せていただかないと我々は何も言えないと思えます。

(事務局)

グラウンドにつきましては、おっしゃるとおり、図面を見てみないと、というのがありますが、既存のグラウンド面積よりも狭くなるような計画は絶対にしないつもりで考えております。配置計画を進めるにあたって、既存のグラウンド面積より広くする配置はどうあるのかというのを念頭において、それも加味した上で児童、先生、地域の方々が使いやすい配置がどういうものになるのかを考えながら配置計画を

進めていきたいと思っております。その中で、ある程度まとまった段階でお示しなりできればと考えております。

(部会長)

ほかいらっしゃいますか。では、質問は出尽くしたようなので、先ほどお話したとおり、斎藤分小学校と二谷小学校の方向性を決めるにあたって、各委員から御意見や感想を述べていただきたいと思います。よろしくお願いします。

(委員)

これまで統廃合について、醒めた立場であまり意見を言わずに俯瞰しておりましたが、私としては基本的には小規模校がいいと思っています。これまで皆さんの統合賛成の意見や反対の意見をお聞きしていて、それぞれに当事者としての深刻な思いがあり、どちらが正解なのか分からずに、私としても随分揺れ動きました。この問題が深刻であればある程、いつまで経っても結論の出ない議論になるように思いました。この統合を教育委員会が権限をもって強引に進めていくのかなと思っていたら、意外と柔軟な態度でした。それゆえに、3年もかかってしまったのだと思います。展望のない現実に対し、現実の問題に直面している地域の皆さんが、世の中の状況や思惑に振り回されることなく、ブレのない考えに支えられていることが必要だと思います。それが感想です。

(委員)

当初統合するというお話の中で、最初にアンケート等もいろいろとったのですが、一番遠く離れている地域、神大寺など、あちらに近いところに住まわれている保護者の方たちは、二谷小学校へ通うのは非常に大変だという意見がありました。距離だけではなくて、一旦登って下がり、再び登って下がりという道になります。また、途中で神奈川大学があり、学生とバッティングすることになるため、お互い狭い通路の中で小学生が端に逃げるような形での通学になることも頭に浮かびました。それに、地域の活性化という中で、斎藤分小学校の各町内会もそうなのかもしれませんが、二谷小学校の町内会での活動が非常に充実しているという面もあります。そのような中で、斎藤分小学校は非常にまとまった小規模校の良さがあり、統合した場合には、それが崩れてしまうのではないかという危機感を持ったことがございました。小規模校のデメリットについて、皆さんの中でも意見がありましたし、教育委員会の様々な資料の中にも記載がありました。それらを住民は目にして、そういうこともあるのかと感じ取られているなという気がしました。何はともあれ、統合がなくなったということだと思いますので、後は青木小学校の問題かなと思います。青木小学校の教室の問題は今直ぐ出てきた話ではないのですが、断続的なマンション開発がじわりじわりと効いてきています。結果的にこの問題がなければ、統合の問題はまだまだ先延ばしにされていたのではないかという気がいたします。ですが、今回このような形

で結論が出ましたので、それをよしとさせていただきます。ほかにもいろいろありますけれども、感じたことは以上でございます。

(委員)

結論として、統廃合せず、二谷単独で建替えというのは私としては受け入れられる結論だと思っています。先ほど他の委員から発言があったように、二谷小学校が神奈川区の小学校の中で最小の校地面積です。数字だけだと、幸ヶ谷小学校の校地面積の方が小さいですが、幸ヶ谷公園は含んでいない数値です。ですから、今使われている学校の面積としては、二谷小学校が最小なわけです。耐用年数がきていないのだから体育館をこのまま残すという話は分かりますが、そうすると建替えの際の制約になります。そうではなく、子どもたちが本当に伸び伸びと運動ができるような広さを確保できるように、そのような制約も取って、広く計画性をもって学校の建替え計画を行うのがいいのではないかと私としては考えております。そのため、建替えの際は、教育委員会の中だけで検討するのではなく、地域及び学校関係者等々も巻き込んで計画されるのですから、地域や学校の先生方も納得するような形で二谷小学校が建つように計画をしていただきたいというのが私の意見です。そのようなことも考慮しながら、今後とも打合せをさせていただければと思いますので、よろしく願いいたします。以上です。

(委員)

私も概ねこの方向性に賛成いたします。その上で、検討部会について、この1年間で大分変わったという印象があります。青木小学校の問題はなんとなく分かってはいたのですが、ここまで数値化されると非常に怖いというのがあります。逆に言うとなぜもっと早く分からなかったのか。今回たまたまこのような形で分かっているいろいろな話をしていますが、今まで統廃合をやってきた中で、他のところは大丈夫だったのだろうかと考えてしまいました。教育委員会さんも非常に大変だとは思いますが、事業者が集合住宅建てることや、どこで開発をするのかは、民間のやることなので予想がつかないのですけれども、そういうのもある程度いろいろなところにアンテナを張り巡らし、しっかり考えていただけるとありがたいなと、私は思います。先ほども他の委員からも発言がりましたが、いろいろなことを地域や学校の方々に聞いて、進めていただけるとありがたいなと思っております。以上です。

(委員)

教育委員会から今回示された提案については賛成です。その上で、少し意見を言わせていただきます。今回いただいた御意見の中にもありました、小規模校だから様々な問題があるという通説がありますが、斎藤分小学校も昔は適正規模校でした。そのときの方がいじめも不登校も学級崩壊も職員室内のいじめもあり、問題が山積みでした。クラス替えをしても、解決するものではありませんでした。ただ、適正規模校が

悪いと言っているのではなく、言いたいのは、小規模校の中には問題がある学校はあるかもしれないけれども、問題のない学校もあり得るのだと。また、適正規模校になったから、そのような児童に関する問題が全てなくなるかといったらそのようなことはないのだと。大きい学校には大きい学校なりのまた違った問題が出てきているという現実もあるので、単に小規模校だから云々という論理建てだけで、今回のように3年間も時間を無駄にするような考え方を改めていただけたらと思います。加えて、この話が最初に出てきたときから、青木小学校の問題点を私はお伝えしています。にもかかわらず、3年経ってようやくその問題点を認知なさって大慌てしているのはおかしいと思います。今後もいろいろところで統廃合は当然検討されていくと思いますが、1個の学校とその近隣にある学校が丁度いいから統廃合しようよという安易な考えではなく、是非その区全体の動向なりを見ていただいて、その区の児童全体が被害を受けず、幸せになれるような計画を立てていただきたいと思います。これは切にお願いいたします。以上です。

(委員)

私は先ほども言いましたが、やはり図面がないと分からないという方向性です。来年度、二谷小学校は120周年の式典をやるのですが、体育館のすぐそばにタイムカプセルが埋めてあります。前回か前々回の資料を見ますと、その上に廊下ができるようになっております。万が一、そこに廊下を作るのであれば、タイムカプセルを埋める基盤となるものをどこかへ移動しないといけません。その費用は、二谷小学校で出すのか、教育委員会が出してくれるのか、そういうことも不安の一つです。あとは、選挙のときに車椅子が入るように、入口にスロープをつけるのですが、スロープがなければ、車椅子の方はどこから入っていいのかわからない状態になります。また、体育館の横に緊急用トイレの管が通っています。そこも恐らく廊下が絡んでくるので、それも作りなおさないといけない状況が出てくると思います。そのため、早く図面が見たいなという話です。以上です。

(委員)

今回の教育委員会からの提案について、基本的には二谷小学校が単独整備、斎藤分小学校が当面の間存続という方向性に関しては賛成いたしますが、元々二谷小学校の単独建替えまたは統合の二つで一つということだったので、それが青木小学校という新たな要素が加味されたわけなので、加味された部分について速やかにキャパに収まるように検討を進めていただきたいと思います。新しく綺麗な校舎ができ、体育館はそのままだけどグラウンドは少し広くなりました。しかし、結局プレハブ建てるという状況だけは避けてほしいです。以上です。

(委員)

今回の提案に賛成です。今まで「斎藤分小学校を残してください。二谷小学校は早く建替えてあげてください。」ということを経験から申し上げてきたところではございますが、そちらを検討していただいたということで、ありがとうございます。また、今回こちらの提案の中でもあります、斎藤分小学校の小規模校を解消しないといけないということを経験でずっと言われてきたわけなのですが、我々が常々申し上げてきたのは、斎藤分小学校は35人ギリギリの1クラスであり、世間一般でいう小規模校のように、学年に同級生が少ない学校ではないことをまず御理解いただきたいです。その上で、資料6の2番冒頭に書いてあるような「児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨すること」ができていないかということ、できていると申し上げたいと思います。今まで、小規模校のデメリットと言われてきた部分を上回るメリットがあることは申し上げてきたつもりですし、今回事務局に届いた意見の中にも、卒業生のそのような意見もあったことは受け止めていただきたいです。冒頭の、適正化を必要だと考えているというところについては、少し残念な見解だなと思いました。また、小学校の中での意見はいろいろ聞いてきたつもりだったのですが、寄せられた意見の中でもありましたとおり、学区内の幼稚園などのこれからの当事者の意見に直接アクセスできなかったことについて、私なのか教育委員会さんが反省する話なのか分からないですが、これから入る世代に向けての情報発信は、今回課題だったのかなと思いました。

また、今回別紙でつけていただいている参考資料の義務教育人口推計は非常に分かりやすいです。ありがとうございます。こちらを見ても、校地面積が非常に小さい二谷小学校に、これからまた増えていきそうな斎藤分小学校の子どもたちをぎゅっと詰めるというのは、今回やはり無理があったよねというのは感じたところがございます。建物を一度建てると50年持ちますので、50年先を見据えて、向こう十年の子どもたちに少しきゅうきゅうで我慢しなさいという今回計画だったのかなと思ったので、それを回避できたのは非常にありがたく感じています。

一方で、二谷小学校が推計でも最大14クラスあるという状況の中で、二谷小学校が現状の規模のまま推移する場合、校舎のみ建替えるとあるのですが、青木小学校の問題があり、さらに斎藤分小学校の問題も先送りになっただけなので、それらの要素がまだ考えられる中で、14学級ぴったりで建てるというのは本当に50年先をきちんと見ているのかなと感じます。そこは、教育委員会だけの縦割りではなく、まちづくり全体として最適な方法を是非模索していただきたいなと思っているところです。最初の二谷小学校と統合した場合という素敵な設計があったと思うのですが、せっかく作成したので、それを生かして少し大きめに作っておくというのも一つの案なのではないかなと思っております。是非二谷小学校の建替えも早くやってあげてください。また、斎藤分の体育館にも是非空調をつけてあげてください。熱中症のリスクはみんな同じくありますので、検討をお願いします。ありがとうございました。

(委員)

今回のいただいた御提案に関して、私としては大歓迎の結論に至ってよかったなと思っています。前にもこちらでお話しましたが、六角橋南町町内会は六角橋3丁目と4丁目で構成されています。今回統廃合に伴って、通学区域を見直すということになると、恐らく4丁目方面は南神大寺小学校へ、3丁目は神橋小学校へということで、同じ町内会の中で小学校が分かれるということが想定されていました。そうすると、おっしゃっているように子ども会や町内会の活動も機能しなくなりますので、私たちとしては今のままが1番いいと思っています、そのとおりになってよかったと思っています。ただ、同じように青木小学校の学区の方もそう思っている方もいらっしゃると思いますので、これから教育委員会の皆さん大変だと思いますけれども、斎藤分小学校が適正規模校になるように頑張ってくださいと思います。ありがとうございました。

(委員)

3年前、第1回終わってからかもしれませんが、傍聴公開しますとなったときに、私がほかの委員さんに「公開するのですか。後ろ指さされたら嫌だな。」と言ったときに、その委員さんが優しい言葉ではなく、「後ろ指さされるに決まっています。何言っているのですか。」と言われたのを思い出します。今回統合は行わないという提案もありましたが、私としての意見は、この提案の中にもありますとおり、「建替えに関する基本方針」の中の建替えのときには小規模校との統合を考えるという方針をとっているということも踏まえ、今でも統合はすべきだと思っています。もちろん、ある施設をずっと使うというのは大事なことですし、使えるものを取り壊すというのはたしかにもったいないなというところもあるのですが、私の考え方として、このような基本方針は国や県、市の人たちが一生懸命考えて作り、我々の代表である市会、県会、国会にて多数決で決まったものだと思っています。そもそも、それを作る行政の人たちは試験を受け、セレクションをされて受かっています。もちろん、税金を使っている以上しっかりやってもらいたいというのもありますし、しっかりやってくれているはずだと私は思っています。その人たちが、まちづくりや統合をこうですよと言っているということは、きっと正しいのだろうと思いで、これまでやってきました。その思いは今でも変わらないのですが、やはり行政の人たちというのは、数字や道路の線などは見えるけれども、青木小学校や昔で言うと幸ヶ谷小学校のように徐々にマンションが建つことを計画に入れるのは難しいのだろうなと思っています。感づいていたかもしれないですが、そのようなことは、このような集まりで地域の人たちが、行政が気づかないところについて意見を出し合うことで、もしかしたら、計画を方向転換するということが挙ったかもしれないと思っています。

今回は、青木小学校のことが引き金になり、そもそも統合が見直しということになっています。正直私としては、最初ほかの委員さんが言ったように、地域の意見はいろいろありますが、多少強引に進めないといけないと思います。意見を聞くことは大

事だと思いますが、その意見を聞きすぎてしまうと、行政というのは恐らく事業が進まなくて、塩梅がなかなか難しいのだろうなと思います。市の人たちは異動があり、人は入れ替わります。しかし、本筋のところは基本方針をバックにして話を進めていくてくれたのだと思います。今回は地域の反対というよりは、周辺の状況が変わったことで、学校規模適正化が不要になったと受け止めています。もしかしたら二谷小学校には関係ない話になってしまうかもしれませんが、斎藤分小学校の10年後のことを考えると、周辺校に影響があると思います。小学校がなくなる、または小学校がどこか新しく1つにまとまるということに対し、各地域にはそれぞれの感情や思いがありますが、その辺りもお金が絡んでくることだと思います。横浜市はふるさと納税で100億円程度、毎年税収が減っています。例えば、これが10年後に半分程度の人が思いとどまり、横浜市に納税してくれましたということであれば、50億円で学校が建つのだと思います。しかし、ふるさと納税での税収減は増えていく一方で、横浜市の税収が増えていくことはなかなか難しいと私は思っています。ただ、予言者ではないので分かりません。誰かこの地域の人が200億円を寄付してくれるかもしれません。そしたら斎藤分小学校は建つのです。お金がかかる以上、ある程度のところで判断しないといけないと思います。

また、この検討部会の中で小規模校が良い悪いという話がありました。もちろん小規模校には小規模校の良さがあり、大規模校には大規模校の良さがあり、お互いにデメリットがあります。中規模校にもそのようなことがあるのかもしれませんが、しかし、教育は国や市などの行政が提供している以上、ある程度真ん中らへんを取らないといけないと思います。小規模校の良さとして、小規模校は先生の目が届いてという意見がありました。そうすると私も小規模校に行きたいという話になるのではないかと思います。公共のサービスとして学校があると私は思っているの、その辺りは平均的なところを求めていくべきではないかと私は思っています。ですので、今ずっとこの提案に賛成ということで来ていますが、私としては今回の統合は行うべきだと思っています。最後になりましたけれども、区役所、教育委員会の皆さま、いろいろなことがあり、地域の方がいろいろな意見をしましたが、言うこと聞かないなと思わずに、支えていただけたらと思います。どうもありがとうございました。

(委員)

事務局から示された意見に賛成いたします。その上で、資料4ですが、様々な御意見を読んでみましたら、一定数統合に賛成の御家庭の意見もあるとのことで、そうした声をもっと拾っていただいて、例えば学区境の御家庭では、「二谷小学校に行きたいよ」という御家庭もあると思うので、そうした声も拾っていただけるような仕組みや取り組みも取り入れていただきたいと思います。

南神大寺小学校は、斎藤分小学校と同じ小規模校ということで、当然、こうした検討部会のお話も出たりします。神大寺小学校との統合がいつになるか分からないですが、そういったときにどうしようか等の話題がでます。その際に、元々南神大寺小学

校は神大寺小学校から分かれてできた小学校なので、人数も減れば元に戻るのは当然だよね、といった話もしています。神奈川県全体の小学校の児童数の推移をみると、令和12年度には全体で1500人程度減少する。小学校で言うと約3校分です。この推計を見ると、今後、現状の数を維持するのは難しいという話をしています。その上で、将来、南神大寺小学校と神大寺小学校の話になったときに、そのときの委員の方がどう判断するのかはそのときの状況次第ですが、維持するのは難しいと私は考えています。また、松本中学校ブロックの中で、三ツ沢小学校では、特別支援学級に入る児童が増えており、個別支援級の学級を増やすための教室数が足りないという懸念があります。三ツ沢小学校だけの問題なのか、市全体として個別支援級のお子さんが増えているのかは分かりませんが、今後の設計等ではそれらも考慮して検討していくことも必要と思います。

最後になりますが、松本中学校と南神大寺小学校も体育館にクーラーが設置されておりませんので、是非、空調の設置を検討していただければと思います。

(委員)

私からは、未来志向の話をさせていただきます。今、横浜市内の学校では、様々な区で学校統合の話し合いが進んでいたり、或いは人口が増えたところでは、数少ないですが、新設校が出来たり、小中一貫の義務教育学校がつけられたりと、学校統合だけではなく、様々な学校の再編が進んでいます。その中で、この話が出てから3年数か月携わってきましたが、例えば、この資料6にある教育委員会事務局からの提案の中にもありますが、「横浜市立小・中学校の学校施設の建替えに関する基本方針」では、「小規模校のままでは建替えを想定していません。」という文章がありますが、こうした基本方針や学校規模に関する条例や規則等についても、今のままで本当に良いのかと、この3年間議論に参加する中で思いました。世の中が段々と変化している中で、当然、法改正などが行われ、特例法ができたりします。横浜市の学校規模適正化の様々な条例や規則に従っていくと、教育委員会としては、建替えはできませんとか、小規模校が近くにある場合はそれを含めて検討しなければなりません、という方向にいかざるを得ないと思います。それは行政だから仕方のないことだと思います。ただ、地域によって様々な状況があるのだと思います。これだけ多くの議論が積み上げられてきたので、この議論の中身を今後の議論にも活かしていただきたいと思います。資料6の文章の1番下のパラグラフにもありますが、「これまで、本検討部会で積み重ねた議論をベースにしつつも…」とありますが、正にここで言われているとおり、皆さんで積み上げた知見を、今後のほかの学校統合のあり方を考える際に活かしてほしいです。私個人的にも、ここまでするのに時間がかかったなとしみじみ思っているのですが、ただ、ここで終わらせてはいけなくて、今後、横浜市ではいろいろな学校で再編が進んでいくでしょうから、条例の見直しや、様々な状況が地域性によってあるということを含めた中でジャッジしていく。法律ありきでなくて、日本の裁判でも判例主義ではないですか。様々な法令だけでなく、判例にも拘束されるわ

けです。いろいろな状況の中から、事象についてトータルで考えていくという姿勢は、今後していかなければならないことだと、検討部会に長く所属させていただいて感じました。

本当に事務局の皆さんは、地域に入っていただいて、何度も足を運んでいただいて御尽力いただいて、このような形が一つ迎えられたというのは、私は、これはこれで良かったと思っています。本当にお疲れ様でした。

(委員)

私が二谷小学校に来た3年前の4月にこの話が出ました。それから月日が経ちましたが、正直一步も進んでいないというのが正直な感想です。夏休み前に次年度の就学児童の保護者と何人も面接をしています。ほとんどの保護者から「統合と建替えの話はどうなっているのですか」と聞かれます。「すみません、まだ一步も進んでおらず、私の方からは何も言えません」と答えてきました。先ほどから空調の話も出ていますが、本校は建替えがあるから空調の候補校にも挙がっていないという話も聞いています。今、このような形で事務局から提案がありました。私の立場からは、事務局の提案に従わざるを得ないし、検討部会の皆様もこの提案が良いのではということなので、勿論、これには従ってはいるのですが、一つ残念なことは、私がこの話を最初に聞いたときに、本校の児童も齋藤分小学校の児童も、一番良い環境の学習環境が整う中で学習活動を進めることが出来るのだろうなということを期待していました。本校も古くなってきており、出張などで新しい学校を目にすると、やはり全然違うなと。廊下の広さや採光をみても、やはりこういう環境の中で、かつ、校舎内にアリーナがあって、非常に使い勝手の良い、そういう校舎の中で齋藤分小学校及び二谷小学校の児童が教育活動を行えるということを一番、期待しておりました。ただ、なかなか事情があり、叶わなかったというのが現実問題としてあるので、仕方ないと思っていますが、今回の推計を見る限り、二谷小学校の学級数が増えていくとは推計には出ていないので、そうすると先ほどから出ている、「体育館はそのまま、校舎だけ建替え」、そこは何とか考えてもらいたいな、というのが二谷小学校の校長としての想いです。青木小学校の絡みでどうなるか分からないというのはありますが、建替えを待たされた側からすると、同じ教育委員会のものとしての発言になりますが、考えていただけると嬉しいなと思います。本校の子どもたちも、本当であれば新しい校舎で終われる子どもたちが、結局今のままの校舎で卒業していくという子どもたちもたくさんいます。ですので、その辺りのことを今後検討していただけるとありがたいと思いますし、先ほどから出ていますように、これから設計等が始まっていく際には、地域の方々の声も是非、拾い上げていただけるとありがたいと思いますので、よろしくお願いします。

(部会長)

はい、ありがとうございました。本当にこの3年間、いろいろ皆さんと検討させて

いただきました。私も、部会長の立場として何とか橋渡しではないですが、真ん中に立って、上手く交通整理が出来れば良いなどお受けしましたが、本当にこれからのことを考えると難しいなど悩みもしました。本日出席の皆さんやこれまで携わってくださった皆様が一生懸命活動していただいて、町内の人たちに話を聞いたり、隣接する地域の人たちに話を聞いたり、ほかの学校の人たちに話を聞いたり、本当に一生懸命、考えていただきました。今回、3年も前から話の出ている部分ですが、小学校をまた一つ作らないといけないかなと思います。これは噂ですけども、海側のコットンハーバーの辺りの運河を埋め立てて、大きなマンションや病院等が出来ることも聞いております。コットンハーバーが出来た際も、幸ヶ谷小学校に行ったり、本町小学校の方に行ったりと、子どもたちも非常に不便したのではないかと思います。その辺りを考えますと、本当に一生懸命やっていたらとは思いますが、教育委員会の皆さんにはもっと市の中でいろいろコミュニケーションを取っていただいて、もう少し先が見通せるような話を聞いていただけるとありがたいなど。また、青木小学校も急に出てきた話ではありませんので、是非その辺りも含めてこれからのことを考えると、斎藤分小学校も二谷小学校も、この地域がどう変わっていくかを考えると、ますます難しいことだろうとは思いますが、市の中でいろいろな部局がある中で、コミュニケーションを取っていただいて、10年先、20年先、30年先とは言いませんが、少しでもスパンのある予定を作っていくような形で考えていただければありがたいと考えています。

斎藤分小学校は皆さんの話を聞いていますと、統合に関しては中止というような形を取るのが最善かと思っております。どうでしょう、皆さん学校統合に関して結論を出したいと思いますが、皆さんの話を聞きますと、統合は見送った方が良くであろうと思いつつお聞きしていました。学校統合をしないという結論付けをしてもよろしいでしょうか。

(賛成多数)

(部会長)

賛成多数ということを受け、統合は行わない形で、今後、ますます斎藤分小学校・二谷小学校の両校が環境の良い、みんなから羨ましがられるような学校になってほしいなどと思っております。是非よろしくお願ひします。

まだ時間もありますので、この際、検討部会として学校規模適正化等検討委員会に提出する意見書の内容についての検討に移りたいと思いますが、皆さんいかがでしょうか。

(異議なし)

(部会長)

こちらについては、前回の検討部会の中で、意見書案を教育委員会から提示するよう意見があったかと思しますので、事務局で用意している意見書案がありましたら皆さんに配付していただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(資料配付)

(部会長)

皆さんに行き渡ったと思しますので、事務局から御説明をよろしくお願いします。

(事務局)

本日も皆さんにたくさん御意見いただきましたので、残りの時間大変短くなっております。本来であれば御意見を考え、皆さんに精読していただいて、いろいろ御検討いただくことが必要と考えておりますが、そのように進めますと、本日で意見書をまとめることは難しいと思しますので、意見書案は私の方から読み上げさせていただきます、そこについて御意見等あれば、部会長にお任せすることになるかと思っておりますが、一応20時半を目途に終わるような形でいきたいと思っております。では、私の方から今回の意見書案について読み上げさせていただきます。

「齋藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等に関する意見書

1 学校統合について

(1) 検討部会としての決定事項

齋藤分小学校と二谷小学校は学校統合を行わず、齋藤分小学校については当面の間存続とし、二谷小学校については、単独での建替えに着手すべきと考えます。

なお、齋藤分小学校については、今後の児童数の推移を注視しつつ、教育委員会からの提案を受けて、学校施設の目標耐用年数である70年を目途に、齋藤分小学校単体での学校の在り方を検討するよう提案します。

(2) 検討経緯

教育委員会から、「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」と「横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針」に基づき、二谷小学校の建替えに伴って、隣接する齋藤分小学校との統合が提案されました。その後、検討を重ねてきましたが、第5回検討部会において、隣接する青木小学校において教室不足が発生する恐れがあり、その対策として両校に関係する通学区域の見直しの可能性があることを教育委員会から示されました。今後、青木小学校の教室不足対策が具体的に検討された結果として、通学区域の見直しを行い、青木小学校の隣接校である齋藤分小学校、二谷小学校の2校において児童の受け入れが必要となる可能性が考えられることから、(1)のとおり検討部会としての考え方をとりまとめました。

2 教育委員会への要望

(1) 検討部会の進め方について

教育委員会による学校統合の必要性についての説明が部会委員に十分に伝わらず、部会の検討に時間を費やしました。環境が変わる児童、保護者、地域住民の理解が大切になりますので、分かりやすく丁寧な説明が必要だったと考えます。

横浜市全体を見渡せば児童数は減少していますが、青木小学校の通学区域のように、今後児童数が大きく増える見込みの地域もあります。学校規模適正化を進めるにあたっては、検討の初期段階から、対象校のみならず周辺校のまちづくりの動向や教室不足等の情報把握に努め、最適な学校規模適正化を提案いただくようお願いします。

(2) 今後の斎藤分小学校について

教育委員会が目指す学校規模適正化の趣旨については、理解しました。

また、斎藤分小学校の敷地条件を考慮すると、狭隘道路で囲まれていることや第一種低層住居専用地域であることから、現在の建替え技術では工期の短縮等が難しいなどの課題があることは理解しました。

今後、斎藤分小学校が目標耐用年数である70年を迎えた段階で適正規模校だった場合には、建替え等を視野に入れた検討を行っていただき、一方、小規模校だった場合は、教育委員会からの提案に基づき、通学区域の再編成や老朽化対策の手法等を検討する場を設けていただくよう、お願いします。

(3) 今後の二谷小学校について

学校施設の目標耐用年数である70年が目前に迫る中、二谷小学校に通う児童の保護者や、今後二谷小学校に入学する未就学児の保護者からも、建替えが遅れていることに対して不安の声が寄せられています。本検討部会での議論が長期に渡ったことで二谷小学校の建替えが当初、説明を受けたスケジュールから大幅に遅れたことについて、教育委員会は真摯に向き合っていたいただきたいと思います。

建替えを進めるにあたっては、当初の提案に基づきグラウンドを既存面積より広く取り、建替え後、グラウンドに仮設校舎等が設置されず、児童が安全・安心で快適な学校生活を送れるような学校施設を目指してください。またその際には、学校関係者や地域の声にも耳を傾けていただきながら、一緒に新しい学校づくりを進めていくようお願いします。

なお、建替え工事に着手した際には、例えばグラウンドが使用できないことの代替措置として、隣接する県立高校のグラウンドを借用できるよう、教育委員会に支援いただくようお願いします。

以上でございます。

(部会長)

ありがとうございました。今、意見書案を読み上げていただいたのですが、まだまだ他に書くこともあるかもしれません。そういう面では、また私の方で委員会と話をしまして、後ほど皆さんにお諮りできればいいかなと思っていますけども、それでよ

ろしいでしょうか。

(委員)

意見書案「2 (2) 今後の斎藤分小学校について」の一行目に「教育委員会が目指す学校規模適正化の趣旨については、理解しました。」とありますが、先ほどから何度も申し上げているように、斎藤分小学校がいわゆる小規模校としてのデメリットがあり、解消しなければならない存在にあるということは納得していないので、「趣旨について理解した」という一文は削除いただきたいと考えております。もう一つ、(2)の最後に追加いただきたいと思ったのが、「小規模校だった場合は、教育委員会からの提案に基づき、通学区域の再編成や老朽化対策の手法等を議論することを要望します。」との文言に加えて、統合し学校がなくなるかもしれないからということで、修繕等の改修が対象外にならないように、必要な改修については、児童の環境を守るという視点でしっかりやっていただきたいという点を書き加えていただきたいと思います。

(事務局)

今回の意見書案の扱いにつきましては、前回の検討部会の中で、意見書の案を用意してほしいということがありましたので、御用意させていただきました。あくまでも、この検討部会としての意見を取りまとめるということになりますので、今委員からいただいた内容について検討部会の総意としてそれが望ましいということであれば、我々事務局が差配してということよりも、皆さんで決めていただければありがたいなと思っております。

(委員)

確かに全員の下承が必要なのですが、(2)は斎藤分小学校に関してのことなので、先ほど委員が言ったことは、全員の下承ではなく、斎藤分側がそう思っているなら、それでよしとしていただいた方がよいと思うのですが、違うのでしょうか。

(事務局)

私がここでいいですというものではなくて、意見書をまとめていただくのは皆さまなので、今がおっしゃっていただいたように、部会として、斎藤分小学校に関する意見は斎藤分小学校側のみの下承でよく、第一文を削除したほうがよいという形であれば、そのような結論になるのかなと思います。

(委員)

では、部会長お願いいたします。

(部会長)

先ほど委員が言われたことに対して、削除と付け加えるような形で、最終的な意見書ができましたら皆様に御報告させていただきます。

(委員)

ということは、先ほどの意見が通ったということでしょうか。

(部会長)

反対意見がなければ大丈夫です。よろしいでしょうか。

(異議なし)

(事務局)

ほかにも加除修正があれば、是非ともお伺いします。先ほど委員から御意見がありましたとおり、一文目の削除と、最後のところに児童の安全、安心に配慮した施設の改修をお願いしたいという文言を加えるという趣旨で、他に御意見はよろしいでしょうか。

(委員)

図面というのは大体いつ頃見せていただけるのでしょうか。

(事務局)

申し訳ございませんが、まだ青木小学校が通学区域の見直しをするかしないかというのは全く決まっていません。仮に、通学区域の見直しをしないとすると、義務教育人口推計にしたがって、どれくらいの教室数を用意するというのが基準として決まっていますので、それに基づいて建替えをすることになります。一方で、仮に、青木小学校の通学区域の見直しを行い、青木小学校通学区域内の何人かのお子さんが二谷小学校に来ることになれば、その分児童数が増え、その学級数に合わせて必要な教室数を考えることになりますので、先ほど御意見をいただきましたけれども、青木小学校の方向性によって、最終的に二谷小学校を建替える規模も決まってくる形になります。それだとまた遅くなるのではないかと先ほど御意見いただきましたが、そこについては、二谷小学校は老朽化が進んでいるという状況を我々なりに把握していると思っておりますので、スピード感をもって青木小学校の調整をし、速やかに二谷小学校の建替えの具体的な設計の話をしていきたいと考えております。大変申し訳ないのですが、その点だけは何卒御理解いただけたらと思います。

(部会長)

御説明いただいたとおり、文章等は御意見を汲んで修正いただき、最終的に皆さん

に御確認をいただいた上で、私が横浜市学校規模適正化等検討委員会に意見書を提出させていただくという形になりますが、よろしいでしょうか。

(委員)

ということは、もうこの会はしなくていいということですか。

(部会長)

そうなります。

(委員)

では、私たちはどうやって訂正いただいた意見書を確認すればいいのでしょうか。

(事務局)

意見書提出後の流れを御説明させていただきます。横浜市学校規模適正化等検討委員会という、この会を立ち上げた委員会へ意見書を提出させていただきます。提出にあたっては、委員の皆さまを代表させていただきます、部会長に御出席を願ひまして検討委員会へ意見書を提出したいと考えております。提出日や、公表につきましては、改めて皆さまへお知らせいたします。この意見書案の修正等につきましては、基本的には修正した内容を部会長と私たちのほうで確認をし、皆様へ一度「意見書を提出させていただきます」という形でお送りさせていただきます。基本的には「この内容で決めました」という形のお知らせとなると思いますが、よほど、述べていただいた内容、例えば削除漏れがある場合は、再度会長と調整した上で皆さまに再確認をさせていただきます。ですので、検討部会としては、形式上は本日をもって終了という形になります。この後の意見書案の確認等、まだ皆さまにはお付き合いいただくことが少々ございますので、よろしく申し上げます。説明は以上となります。

(部会長)

本当に長い間、足掛け3年間皆さま御苦勞様でございました。地域の方との打ち合わせ、話し合い、アンケートを取ったりされるなど、本当に大変な思いをされてきたかと思えます。それもこれも地域、そしてこれからの子どもたちの未来のために少しでも良い地域、また学校が運営していけるように、是非皆さまのお力添えをいただき、ますます良い齋藤分小学校・二谷小学校でいていただきたいなと思っております。皆さま、このようにお忙しい中お集まりいただきまして、本当にありがとうございました。

(委員)

恐らく、地域の方には部会ニュースでこの結果が周知されると思うのですが、例えば齋藤分小や二谷小の職員に、統合せず二谷小学校は単独建替えということは伝えて

も良いのでしょうか。

(事務局)

固い話になるのですが、基本的には横浜市学校規模適正化等検討委員会に意見書を提出し、最終的には横浜市学校規模適正化等検討委員会から教育委員会に答申を提出し、教育委員会に諮るとというのが正式な形になります。現時点では「検討部会としては統合を見送り、二谷小学校は建替えますという方向性でまとまった」というのがある意味正式な言い方になろうかと思えます。

(委員)

そうすると、教育委員会で最終決定がなされて、もうこれが結論ですよという風に、地域などへ発表して良いのはいつになるのでしょうか。大体の目途で構いません。

(事務局)

たまたまなのですが、第三者機関の先生方の御都合もありまして、横浜市学校規模適正化等検討委員会は先週開催されたばかりです。次の開催については、毎月開催している会議ではなく、2～3か月程度のスパンで開催していることもあり、少々空いてしまうとは思いますが。親会（横浜市学校規模適正化等検討委員会）にかけさせていただいて、そのあと教育委員会にかけるという形になりますので、その後に、いつものようにニュースの発行により地域の皆さまへ正式にお伝えするという形になると思えます。

(委員)

ということは、そうでなくても遅いのですが、検討部会ニュースが今度出たときには、教育委員会まで全部手続きをし、最終決定をしたと考えていいのでしょうか。

(事務局)

そのように考えていただいて、結構です。

(委員)

分かりました。

(部会長)

それでは「次第6 事務連絡等について」事務局からお願いします。

(事務局)

スケジュール等の確認については、先ほど大塚よりお話させていただいたとおりに

なります。

(事務局)

すみません、先ほど私としては、教育委員会で決定してからニュースを作らせていただいた方が、誤解がなくいいかなと思っていたのですが、部会としての方向性がどうなったのか、学校の先生方や地域の方へはあまり伝わらないのではないかということもあろうかと思しますので、その検討は引き取らせていただいて、例えば、先に本日の検討部会の状況だけでもニュースを発行した方が我々としても良いということであれば、11月頃に一度ニュースを発行し、教育委員会としての決定が出た段階で改めてニュースを発行するなど、そのようなことを考えたいと思います。いつものように事前に確認等をさせていただいて、最終的に配付するのは11月頃になるかもしれないですが、ニュースの発行についてはできるだけ早めに検討させていただきたいと思います。

(委員)

もし、本日の検討部会をベースにして、11月にニュースが発行されたとします。実際、教育委員会の最終段階へ行くのはもっと先になるかと思えます。先ほど、親会へ行くのが2～3か月程度後かもしれないとおっしゃっていたので、11月の時点では教育委員会のところまで届かないですよね。検討部会で出た結論と、最後の教育委員会での結論が違ったら大問題になると思います。そのようなことは100%あり得ないのでしたら、早く出しても良いと思うのですが、そこはいかがでしょうか。

(事務局)

繰り返しのなってしまいますが、今回の検討部会の意見書を最大限尊重して、横浜市学校規模適正化等検討委員会という第三者委員会でも答申をする議論をしていただくこととなります。手続きとしては、そのような手続きがありますので、それを踏まえて考えさせていただければと思います。

(委員)

今までひっくり返ったことはあるのでしょうか。

(事務局)

今のところはございません。

(委員)

記者の方もいらっしゃっているので、地域の方も恐らく明日、明後日には知るのはないかと思えます。答申して、ひっくり返ることはゼロではないのかもしれないけれども、検討部会としては、このように決まったということは事実なので、例えば、

今後教育委員会へ答申するなどのある程度言い訳みたいなことも載せておけば、いいと思います。あまりにも間が空きすぎると違和感はあるかなと個人的には感じます。

(委員)

報道は、本日の結論はこうなりましたというのを記事で出しても問題ないのでしょうか。

(事務局)

この部会自体は公開で開催しており、傍聴の方も報道機関の方もいらっしゃいます。どのような形で報道されるかについて、我々は報道を左右できることではございませんので、我々としては正確にお伝えする術しかないかなというのが正直なところです。

(委員)

ということは、検討部会ニュースが出る前に、例えばタウンニュースさんとかが来週号に載せたら、ほとんどの人はそれ見て、本日の検討部会の決定が分かるわけですね。

(委員)

スケジュールですが、検討部会ニュースの発行まで約1ヶ月半程度かかるため、9月頭に開催していれば恐らく10月に発行できたけれど、もう半ばなので発行が11月になるという説明だと思うのですが、そのニュースに今日の検討部会での結果に加えて、「検討部会としての意見書はこのような内容で、今後このような流れとなり、最終決定はここです。その最終決定は何月頃に決定しそうです。」などの内容が入っていたらいいと思います。先ほど、最終決定でひっくり返る可能性も基本的にはないが、なくはないとのことだったので。ただそうなる、検討部会はこれで終わりなので、最終的な結果は皆さん何で知るのでしょいか。

(事務局)

ありがとうございます。最終的な教育委員会としての方向性については、当然検討部会の皆さんには結果をお伝えさせていただきます。先ほど申し上げたのは、教育委員会の最終的なところまで決まった時点でニュースを発行した方がいいかなということで最初は申し上げたのですが、その前に部会としての方向性は先に決まったということもございますので、検討部会ニュースの発行のあり方については、我々も一度考えさせていただければと思います。

(委員)

それは一択だと思います。2か月に一回の学校規模適正化等検討委員会に諮ること

を含めて考えると、最後まで待っていたら今回の検討部会ニュースは年明けになると思います。検討部会ニュースであり、教育委員会ニュースではないのですから、最終決定ではないということはきちんと書いて、なるべく早く検討部会ニュースを発行し、結果については市のお便りや広報なのか分からないですが、何の方法で一般の人は知るのでしょいか。

(事務局)

教育委員会の結果だけということであれば、ニュースでなければ基本的にホームページで知っていただく形にしております。

(委員)

ここにいる人たちが皆に広めればいいのではないですか。

(事務局)

ニュースの発行についてたくさんの御意見をいただいたので、どのような形で発行するかについては、事務局で引き取らせていただいて、こちらで一度検討させていただければと思います。

(委員)

どういう形で発行するのかが決まったら、情報としていただけるのでしょうか。

(事務局)

ニュース発行の形式につきましては、例えば意見書を皆さんに確認させていただくときなどに、メール等でお知らせをさせていただければと思います。

(事務局)

それでは、この会自体は最後になりますので、改めまして教育委員会を代表して、課長の大塚より御挨拶させていただきたいと思います。もう少しだけお時間をください。

(事務局)

時間も過ぎてしまい、申し訳ございません。今回、3年間の検討部会の最終回になります。私が皆さんとお付き合いを始めたのは昨年度からという中で、私の説明の拙さもありまして、皆さんから進め方も含めて時間がかかっている等御意見をいただいたと思っております。今回、これが方向性ということで、検討会としてまとめたいただきました。いろいろ、我々教育委員会としても進め方で反省すべき点があるのではないかと率直な意見も皆さんからいただいたと思っております。それについては、委員の方々の御発言もありましたけれども、やはり見直すべきもの、例えば今後

	<p>改善すべき点等があればそこはしっかりと事務局としても受けとめて、今後のよりよい子どもたちの学校教育の提供というのが教育委員会の使命でございますので、そちらに生かしていきたいと考えてございます。本当に3年間の長きにわたりまして、皆さま多大なる御協力深く感謝しております。本当にどうもありがとうございました。</p> <p>(部会長)</p> <p>以上をもちまして、「斎藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会を終了します。本当に長い間ありがとうございました。御協力いただきまして、本当に助かりました。また、これからも学校のため、そして地域のために皆様是非御協力をお願いしたいと思います。本当に今日はありがとうございます。</p>
<p>資 料 ・ 特 記 事 項</p>	<p>【資 料】</p> <p>資料1 委員名簿</p> <p>資料2 席次表</p> <p>資料3 「斎藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会 ニュース第5号</p> <p>資料4 事務局に寄せられた御意見等一覧</p> <p>資料5 青木小学校の検討状況について</p> <p>資料6 教育委員会からの提案</p> <p>別紙 令和6年度義務教育人口推計（神奈川区・小学校）</p>